

第三者評価結果報告書

園名：幼保連携型認定こども園 苫小牧聖ルカ幼稚園

委員：横山 明光

<評価基準> A：よくできている B：ほぼよくできている
C：あまりできていないので、一部検討を要する
D：まったくできていないので、改善を要する

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項など）		評価
概 良女子は思わぬなか、職員間の相互理解と努力を賞賛す。		A
評価領域	特記事項	評価
1 園の教育目標	具体的キリスト教理念と活動を記す	B
2 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画		A
3 評価項目の達成及び取り組み状況		A
4 園長の経営姿勢		A
5 教師の指導姿勢		A
6 日常の主な活動		A
7 幼稚園の主な行事		A
8 幼稚園と家族の連絡		A
9 園の情報公開		B
10 保護者の活動		B
11 今後取り組むべき課題	職員間の相互理解を更に促進し、特に教会の連携	B

*その他

第三者評価結果報告書

園名：幼保連携型認定こども園 苫小牧聖ルカ幼稚園

委員：吉田 重義

<評価基準> A：よくできている B：ほぼよくできている
C：あまりできていないので、一部検討を要する
D：まったくできていないので、改善を要する

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項など）		評価
「子ども達の愛と心を大切にする存在である」というキリスト教の価値観のもとに、教育と保育の両面を兼ねた保育活動を行い、また、地域「子育て支援施設」としての役割を担っている。		A
評価領域	特記事項	評価
1 園の教育目標	キリスト教の価値観を基盤とし、教育と保育、「3つの柱」を基とした保育活動の充実を図る。	A
2 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画	環境を通して行う、教育と保育を兼ね、子ども達の主体的な活動を通して、心身の成長を目指す。	A
3 評価項目の達成及び取り組み状況	全2の項目に関連し、具体的な計画、実践、評価のサイクルを大切にした保育活動を進めよう。	A
4 園長の経営姿勢	教職員の意識を高め、より質の高い保育の質の研修の充実と安心安全な環境づくりを努めよう。	A
5 教師の指導姿勢	子ども達一人ひとりの個性を大切に、認め合い、主体的な活動や「遊び」の改善、工夫に努めよう。	A
6 日常の主な活動	日々の活動から、子ども達の心身の成長、発達を助長し、量・質の経験の積み重ねと学びの場を創出している。	A
7 幼稚園の主な行事	1つ1つの行事が年間計画のもと、ねらいに沿って活動し、子ども主体のものにしたいと工夫している。	A
8 幼稚園と家族の連絡	登園・降園の時、1対1懇談、おたより帳等を通して、また、保護者との日々の交流を大切に「信頼関係」を築いている。	A
9 園の情報公開	(園)の情報を「壁しかりより」「クラスより」「レクミー」などを通してわかりやすく伝えている。	A
10 保護者の活動	「森のようちえん」や各行事の協力などを通して、園の活動の理解や保護者同士の交流の場となっている。	A
11 今後取り組むべき課題	よりよい子ども達のための保育、経営の向上のため、研修内容を充実させ、教職員の共通理解を図る。 また、地域に開かれた幼稚園を目指す。	A

*その他

第三者評価結果報告書

園名：幼保連携型認定こども園 苫小牧聖ルカ幼稚園

委員：甲斐 富美子

<評価基準> A：よくできている B：ほぼよくできている
C：あまりできていないので、一部検討を要する
D：まったくできていないので、改善を要する

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項など）		評価
現在の社会はあらゆる事が変わりつつありますね。幼稚園運営にご苦労されていることが分かります。保護者の声に敏速に、丁寧に対応することが肝心ですから良くやられていると思います。良い結果は必ずです。		A
評価領域	特記事項	評価
1 園の教育目標		A
2 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画		A
3 評価項目の達成及び取り組み状況		A
4 園長の経営姿勢		A
5 教師の指導姿勢		A
6 日常の主な活動		A
7 幼稚園の主な行事		A
8 幼稚園と家族の連絡		A
9 園の情報公開		A
10 保護者の活動		A
11 今後取り組むべき課題		A

*その他

第三者評価結果報告書

園名：幼保連携型認定こども園 苫小牧聖ルカ幼稚園

委員：鈴木 幸夫

<評価基準> A：よくできている B：ほぼよくできている
C：あまりできていないので、一部検討を要する
D：まったくできていないので、改善を要する

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項など）		評価
北大研究林に近いという地の利を生かした「森の幼稚園」は素晴らしく、昨年からの保護者参加で行われたことは大いに評価できる。一方、園児の送り出しの際の保護者不安が解消されているか、教職員シフトや勤務改善もあり厳しい中、更にポストコロナの日常をどう再構築していくか模索が続く中、IT活用や創意工夫をさらに進めてほしい。		A
評価領域	特記事項	評価
1 園の教育目標	教職員や保護者にも理解が浸透していると思われる。	A
2 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画	保護者ニーズを捉え適切に立案されている。短期解決は困難な課題も多く、少しずつでよいので着実に進めてほしい。	A
3 評価項目の達成及び取り組み状況	同上	A
4 園長の経営姿勢	人繰り、財務、感染症対策と多忙な中、各方面に気を配りながらキリスト教教育の理念を生かした経営をしている	A
5 教師の指導姿勢	一部に不安はあるものの、大多数の教師は目標に真摯に向い、こどもたちや保護者の声にもしっかり耳を傾けている。	B
6 日常の主な活動	教育活動については申し分ない。預り保育の保護者要望が強い様子。人繰りの問題もあるので慎重でよいが、認定こども園の特色を生かして、少し拡大できるとよいと思う。	A
7 幼稚園の主な行事	多様な行事、特に森のようちえんの取り組みやチャプレンによる礼拝が継続出来ていることは素晴らしい。	A
8 幼稚園と家族の連絡	送り出し時の保護者不安の解消が進んでいるか、やや不安	B
9 園の情報公開	園の概要や日々の園内活動、学校評価を含めホームページでしっかり開示している。更新頻度を少し高めた方がよい。	A
10 保護者の活動	各行事への保護者参加も行われ、アンケートでも積極的に意見が出ている。可能であれば、日常的に園をサポートしていただく活動が出てくるとなるとよい。	A
11 今後取り組むべき課題	経営的には少子化の中で、借入金返済を着実に進めていく必要があり、認定こども園の特性や利点を生かした経営を財務改善にどう生かしていくか、頑張ってもらいたい。	A

*その他